

表面と同書式で光明真言が記されている。裏面は表面とは天地逆に墨書きしており、表面の記載が終わり裏返す時、横方向ではなく、縦方向に裏返している。また、光明真言の上部には、表面と同様のアト考えられる梵字の一部を残している。(3)は、遺存状態がやや悪いが内容・書式ともに(2)と同じであり、大きさも似かよることから同時に作成されたものとみられる。

(2)(3)に記された光明真言は、死者の菩提回向及び現世の増益息災のために用いられる真言であり、密教の灌頂に際しての聖句で、日常誦持する代表的明呪でもある。葬送次第「二巻章」によれば三反あるいは二一反読むことがみられ、本例の場合も本来はさらに複数の塔婆が同時に作られ使用された可能性が高い。

呪符(1)の願意も光明真言塔婆(2)(3)との関連で考える必要がある。

その場合葬送あるいは供養に関わるとみるのが順当であるが、(1)が天刑星を描いたものであるとすると、普通には疫病退散の願意が考えられ、年中行事儀礼あるいは習俗の側面からも考える必要がある。

なお、木簡の釈読は、(財)元興寺文化財研究所の藤澤典彦氏による。内容は、藤澤氏の報文より抜粋・加筆した。

## 9 関係文献

井口村教育委員会「県営担い手育成基盤整備(区画整理型)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 蛇喰A遺跡」(一九九八年)

(神保孝造)

# 木簡研究第一六号

## 卷頭言

吉田 孝

一九九三年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡右京二条三坊四坪

薬師寺旧境内

大安寺

旧境内 興福寺旧境内 東大寺

阪原阪戸遺跡

藤原宮跡 藤原京跡

右京九条四坊 飛鳥京跡 定林寺北方遺跡

金剛寺遺跡

長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 平安京跡左京三条三坊十三町

大坂城跡(1)

大坂城下町跡 若江遺跡

西ノ辻遺跡

袴狭遺跡(1) 袴狭遺跡(2)

砂入遺跡

林布ヶ森遺跡 見藏岡遺跡

木梨・北浦遺跡

藤江別所遺跡 阿形遺跡

伊勢寺遺跡

御殿・二之宮遺跡

東中館跡

長崎遺跡 八幡前・若宮遺跡

大宮遺跡

三堂遺跡 鴨田遺跡

大戌亥遺跡

杉崎廃寺 元總社寺田遺跡

南A遺跡

安子島城跡 山王遺跡

今塚遺跡 払田柵跡 福井城跡

一乗谷朝倉氏遺跡

戸水大西遺跡

跡 西念・南新保遺跡

八幡林遺跡

宮長竹ヶ鼻遺跡

タテチヨウ遺跡

跡 円城寺前遺跡 古市遺跡

郡山城下町遺跡

周防国府跡

初瀬遺跡

跡 船戸遺跡 ヘボノ木遺跡

原の辻遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一六)

平城京跡左京一条三坊十五・十六坪

沖縄の呪符木簡について

いまに息づく呪符・形代の習俗

文書木簡はいつ廃棄されるか

史料紹介

近世の豈の頭板について

史料紹介

近世の荷札木簡の一例

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円

山里純一  
奥野義雄  
今泉隆雄  
鈴木景二

今津勝紀  
鈴木景二